

1868—1912
明治時代

読み解く
経済で
日本史

まえがき 金本位制を理解すれば世界史もわかる

明治維新から第一次大戦前までの経済を語る上で絶対に避けて通れないのが金本位制^{きんほんい}です。この制度を理解すれば、この時代の大まかな景気循環を掴む^{つか}ことができます。そして、「景気が悪くなる」と人々はヤケを起こして、普段は見向きもされない危険な思想にすぎる」ということが事実であることが検証できると思います。これは、本シリーズが一貫して主張しているテーマでもありません。

明治維新以降、日本の改革のスピードは速すぎて、個別の問題にフォーカスすると経済全体の流れを見失いがちになります。世界経済の全体像と景気循環の大まかな流れを最初に頭に入れておけば、特定の歴史イベントが全体のどこに位置づけられるのか把握しやすくなります。また、こうすることでそのイベントがなぜ起こったのか、過激思想が台頭した背後にある景気の悪化の原因もすっきりと理解できます。

学校の歴史教育のように、年号とイベントの丸暗記では、事件の原因はおるか、前後の繋がりがわからなくなります。おそらくそれが歴史嫌いを生んでいる原因です。

そして、日本人が支那や朝鮮から過去の歴史について問われたときに、反論に窮^{きゅう}する理由も同じです。

特に、近現代史を語る上で、あらゆる経済的な現象の原因は金本位制をベースとした通貨制度にあります。まずはこの仕組みを理解することで、世界経済の大まかな流れを頭に入れていただければ、その後の世界史の流れもすんなりと頭に入ってくるでしょう。

なお、漢字で「金」と書く場合、お金（マネー）を意味する場合と、金^{ゴールド}を意味する場合があり大変紛らわしくなっています。本書では特に断りのない場合、お金（マネー）の意味でこの漢字を使いますが、金^{ゴールド}の意味で使う場合はなるべく「金（ゴールド）」という表記を心がけました。ただし、前後の文脈から「金（ゴールド）」であることが明白である場合は、煩雑^{はんざつ}になることを避けるため省略しています。この点を頭に入れた上で読み進めていただければ助かります。